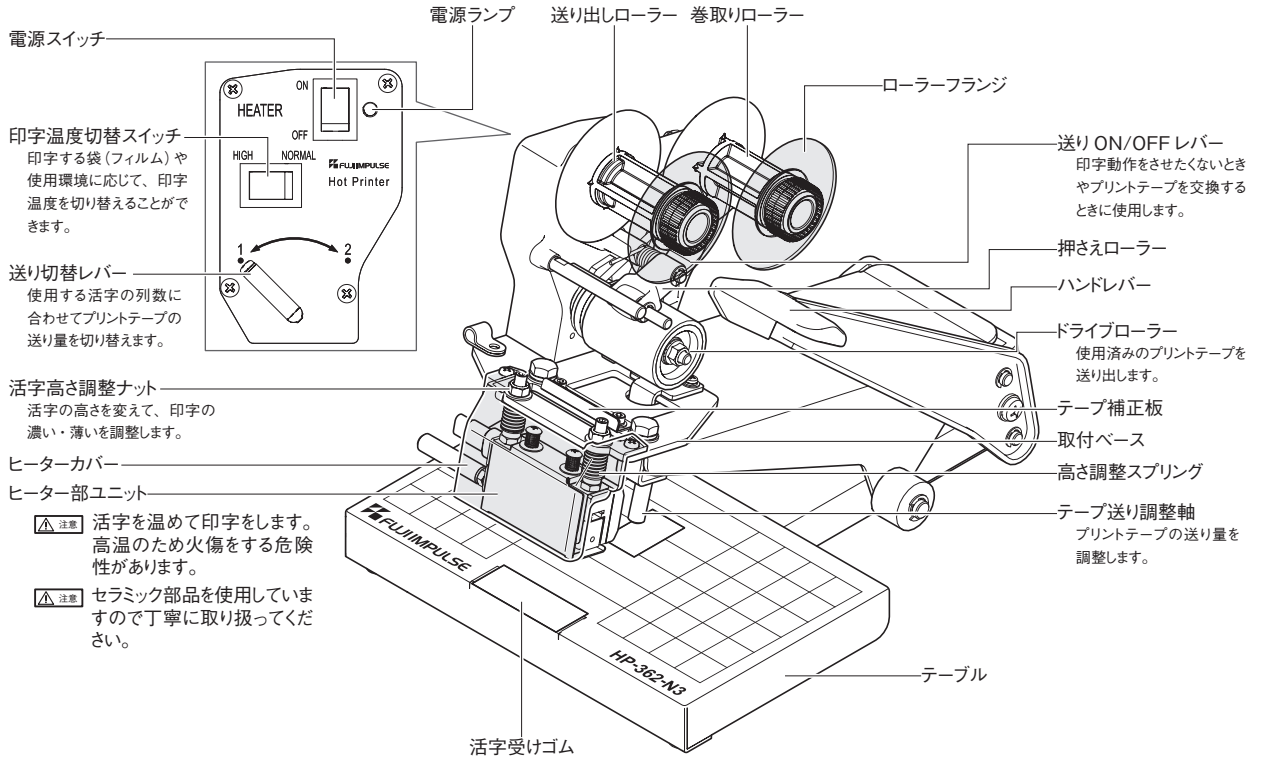
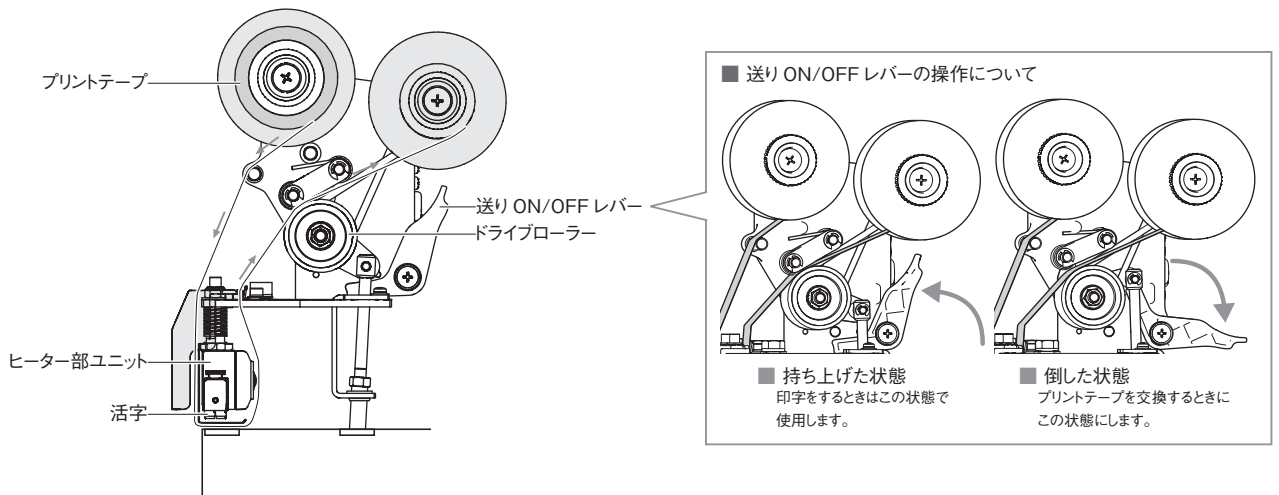


5 各部の名称とはたらき



本体ユニット部構造図



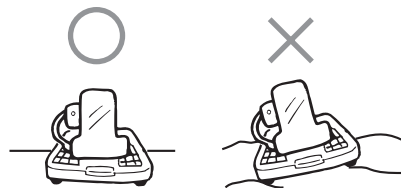
6 正しい使い方

この製品を使用するときは以下の「正しい使い方」をよくお読みいただき、お使いください。
以下の方法以外の操作方法で使用されますと故障の原因となり、たいへん危険です。

6-1 製品の設置

HP-362-N3 を水平な面を持つ適切な作業台の上に設置してください。

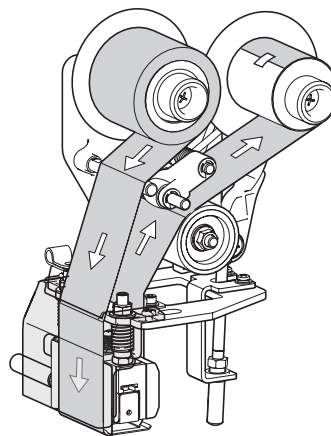
注意 水平ではない作業台に不安定な状態で設置するとプリンターが落下する危険性があります。



6-2 プリントテープを取り付ける

「7-1 プリントテープの交換」(→ P.16)を参照して、プリントテープをプリンターにセットします。

MEMO 工場出荷時にはあらかじめプリントテープがセットされています。

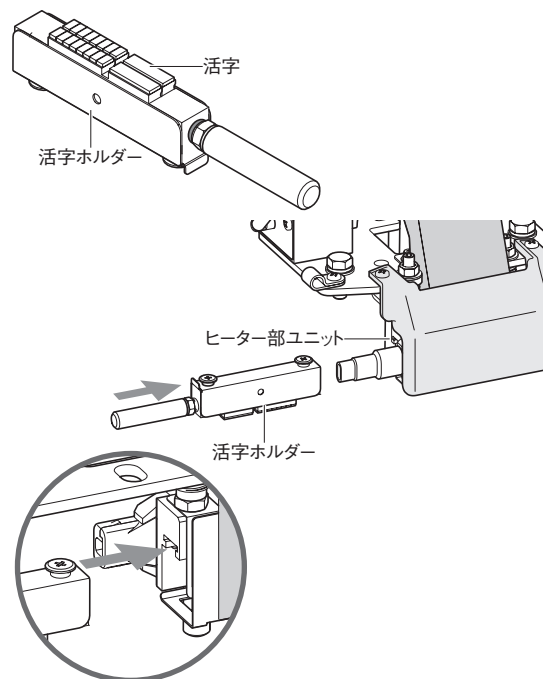


6-3 活字をセットする

「7-2 活字の交換」(→ P.19)を参照して、活字ホルダーに活字を入れて、ヒーター部ユニットにセットします。

MEMO 工場出荷時にはあらかじめ活字が1列セットされています。

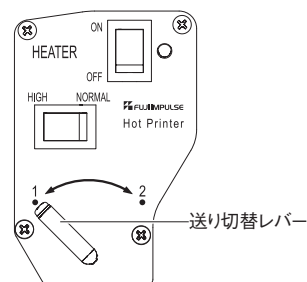
注! 活字ホルダーの2つの突起部がヒーター部ユニットの溝に確実に入るようにまっすぐ差し込んでください。



6-4 プリントテープの送り量を設定する

「8-2 印字列数の切替」(→ P.23)を参照して、活字の列数に合わせて送り切替レバーを設定します。

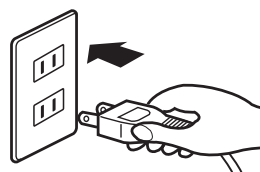
MEMO 工場出荷時には1列送りに設定されています。



6-5 電源の接続

電源は必ず「10 仕様」(→ P.28)に記載している電圧・消費電力に適合した容量のコンセントから直接接続し、電源プラグは根元までしっかりと差し込んでください。

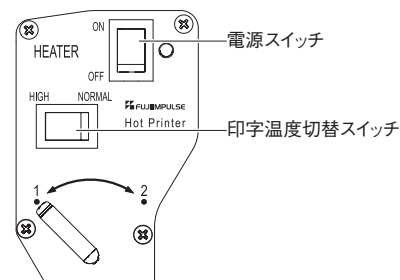
警告 規定の容量に合わない場合、火災などの危険性があります。



6-6 電源スイッチをON

電源スイッチをONにしてください。

同時に電源ランプが点灯し、ヒーターが温まり始めます。



6-7 印字温度を切り替える

通常はNORMALで使用し、HIGHにすると印字温度が高くなります。

印字する袋(フィルム)や使用環境に応じて、印字温度を切り替えてください。

6-8 適温になるまで待つ

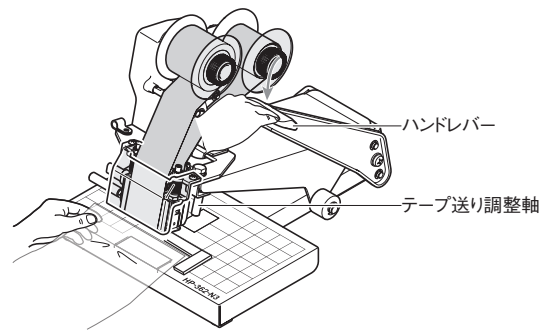
ヒーターが印字可能な状態に温まるまで10～15分お待ちください。

6-9 ハンドレバーを押し下げる

ヒーター部が印字可能な状態に温まれば、ハンドレバーを押し下げて、フィルムに約 0.5 ～ 1 秒押しつけた後レバーを上げると印字ができています。

印字位置はテーブルの活字受けゴムのある位置です。

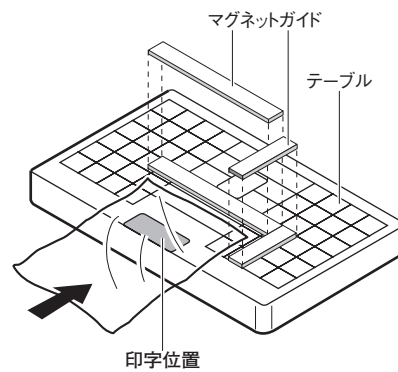
注！ 連続して印字をされる場合、テープ送り調整軸がテーブルから離れる位置までハンドレバーを戻してから、次の印字を行うようにしてください。テープ送り調整軸が戻りきらない状態から、次の印字を行うためにハンドレバーを押し下げますと、プリントテープの送り量が少なくなり、正確な印字ができなくなる場合や故障の原因となる場合があります。



同じ位置に印字したい場合

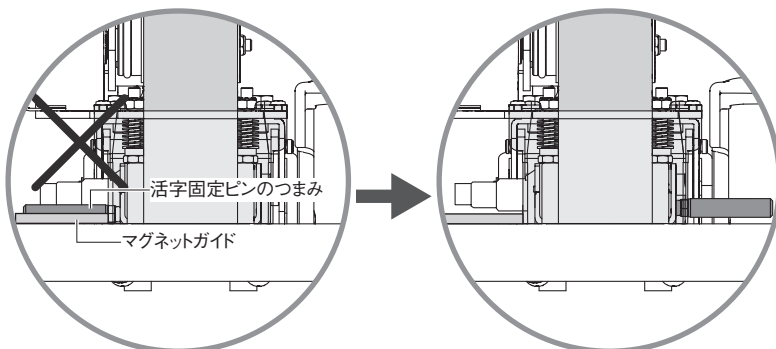
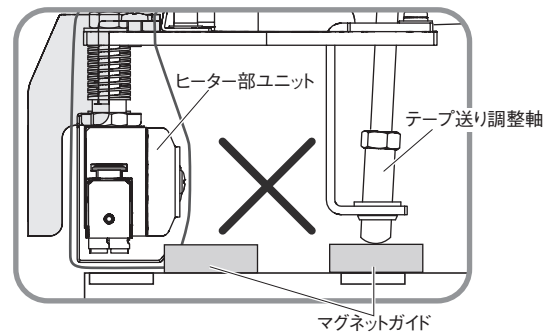
印字位置を決めたい場合

付属品のマグネットガイドを利用してください。マグネットガイドを包材の角に合うようにテーブルにセットします。ガイドに合わせてフィルム（袋）をセットして作業をすれば、同じ位置に印字ができます。



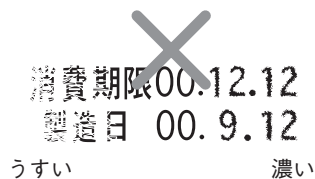
注！ ハンドレバーを押し下げた際に、テープ送り調整軸、ヒーター部ユニット、活字固定ピンのつまみなどの部品にマグネットガイドが当たらないようにセットしてください。プリントテープの巻取り不良や、部品の破損などの原因となります。

MEMO 活字固定ピンのつまみと干渉する位置にマグネットガイドをセットする場合は、活字ホルダーを反対向きに入れることで使用することができます。



6-10 印字状態の確認

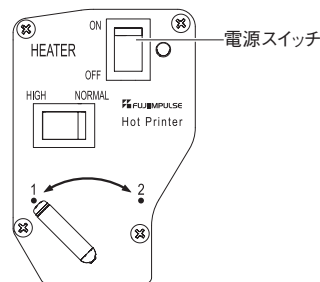
印字がきれいにできていない場合は、「8-1 ヒーター部ユニット(活字)の高さ調整」(→ P.22)を参照して、きれいな印字ができるよう調整を行ってください。



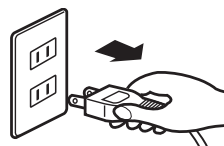
6-11 電源スイッチを OFF

作業が完了しましたら電源スイッチを OFF にしてください。

注意 電源スイッチを OFF にしてもしばらくはヒーター部は高温のため火傷をする危険性があります。不用意に触れないように注意してください。



長時間使用しない場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。



6-12 作業終了後の点検

作業終了後は、清掃を行い、活字などの部品が傷んでいないか点検を行い、必要に応じて交換をしてください。

注意 電源スイッチを OFF にしてもしばらくはヒーター部は高温のため火傷をする危険性があります。清掃の際はプリンターのヒーター部が十分に冷えてから作業を行ってください。

